

病態病理学系 腫瘍・人体 病理学分野

2 病理学分野で協力して診療、研究、教育活動を展開

到達目標

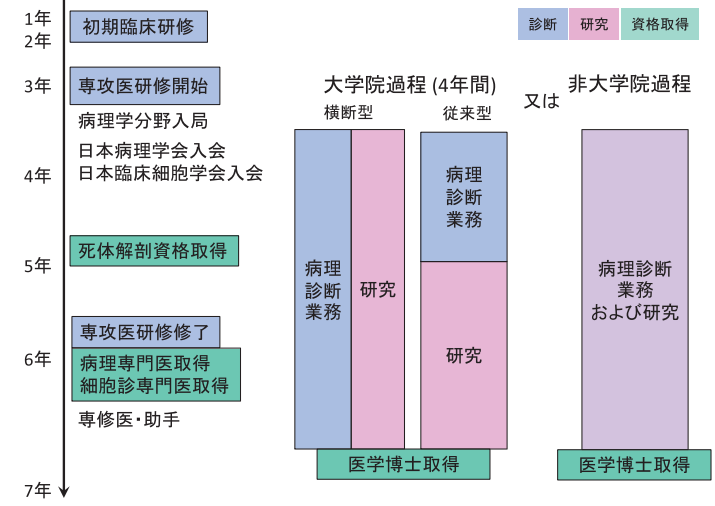
診療：適切な治療のために、迅速かつ正確な病理診断を目指しています。全身すべての臓器疾患に幅広く対応できる標準的な診断能力と、臨床各科からの高度な要望に対応できる専門的な診断能力の研修を目指します。

研究：基礎研究と臨床応用を融合させた研究を目指します。

教育：疾患の病因・病態を学ぶ病理学と実践的病理診断の卒前・卒後教育ができる教員を目指します。

病理学分野 研修の概要

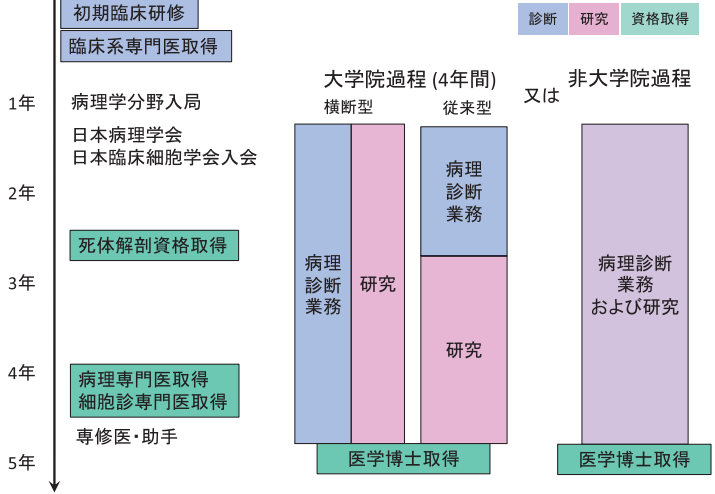
専攻医研修として入局する場合



病理専門医への道のりポイント

1. 最短で卒業後6年目の夏に病理専門医を取得することができます。
2. 臨床の専門医取得後に病理専門医を目指す転科は、専門性の点からむしろ大きなメリットです。
3. 大学院課程に進む、あるいは専修医として勤務する、いずれの場合も、学位(医学博士)取得と専門医取得の両立が可能です。
4. 死体解剖資格、病理専門医、細胞診専門医を取得することができます。

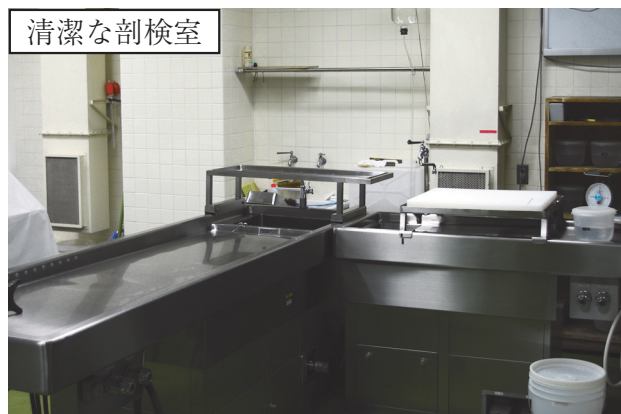
臨床を経て入局する場合



診療内容と研修

1. **病理解剖（剖検）**：御遺族の承諾のもとに、病死された患者さんの御遺体を解剖させていただくのが「病理解剖」です。

- **目的**：死因は何か、生前の診断は正しかったのか、どのくらい病気が進行していたのか、適切な治療がなされていたのか、治療効果はどのくらいだったのか、など医療の質を高めるためには必須です。
- **CPC**：臨床の主治医と担当した病理医とは、clinico-pathological conference（CPC）を通して、他の多くの医師と議論することにより、症例に対する理解を深め、考察します。これには、初期臨床研修医に義務付けられている研修医CPC（1/週）や、病院CPC（1/月）があります。
- **研修と資格**：病理解剖を行うためには、死体解剖資格が必要です。病理解剖の手技、症例のまとめなどについて研修し、資格を取得します（厚労省認定）。



2. **病理診断**：適切な治療を始めるためには、正確な病理診断が必要です。

- **切り出し**：患者さんから摘出された検体は固定液で固定され、病理医による切り出しが行われます。
- **標本作製**：検査技師によって標本作製が行われます。正しい診断には、検査技師との協調作業が必要です。
- **術中迅速**：手術中に切除範囲などの方針を決定するために、術中迅速診断が行われます。
- **鏡検および報告書作成**：肉眼所見、組織所見を合わせて、病理診断報告書を作成します。病理報告書の内容は、臨床医に届けられ、治療に反映されます。
- **カンファレンス**：正確な病理診断を行うためには、画像や臨床情報も併せて検討する必要があります。臨床医とディスカッションが必要な症例については、術前・術後カンファレンスなども行いながら情報を共有します。
- **資格**：一人で病理診断を行うためには、病理専門医の資格が必要です。また、細胞診専門医の資格も取得できます。専門医の資格を取得するまでの期間は、指導医とマンツーマンで、ディスカッションしながら指導を受けます。



3. 研修施設および関連病院

日本大学医学部附属板橋病院	日本大学病院
地域医療機能推進機構横浜中央病院	横須賀市立市民病院
板橋区医師会病院	聖路加国際病院
川口市立医療センター	埼玉県立小児医療センター
東京都立東部地域病院	上尾中央総合病院
東京都立荏原病院	国立病院機構 埼玉病院
藤崎病院	

4. 指導体制

日本大学医学部附属板橋病院	病理診断科・病理部部長	増田しのぶ
	病理診断科・病理部科長	羽尾 裕之
	生検室長	大荷 澄江
	剖検室長	辻村 隆介
	臨床研修指導医	計 6名
	病理専門医	計 7名
	口腔病理専門医	計 1名
	細胞診専門医・指導医	計 6名
日本大学病院	病理診断科 科長	唐 小燕
	臨床研修指導医	計 2名
	病理専門医	計 2名
	細胞診専門医・指導医	計 2名

研究活動

○学位（医学博士）取得

大学院課程を選択する場合、従来型、横断型いずれの場合も、基本的に4年間での学位取得を目指します。また、専修医として診療業務を行いながら研究を行う場合には、学位取得までの期間は個別の事情によります。

○大学院課程指導教員

病理系	腫瘍病理学	増田しのぶ	教授
	人体病理学	羽尾 裕之	教授
		他 5名	

○腫瘍病理学分野

腫瘍病理学分野では、腫瘍の観点から疾病の発生機序を明らかにし、治療に寄与する研究を目指しています。患者さんの疾病を治療に導く鍵は、患者さんの組織の中にあると考え、研究をすすめています。病理組織の組織形態と分子病理学的情報とを統合させ、腫瘍の発生機序、進展過程、腫瘍内多様性を明らかにする過程で、バイオマーカーとなりえる情報を探索しています。現在、腫瘍を理解するためには、遺伝情報、感染性微生物、代謝など複合的知識の統合化が必要であり、腫瘍に限定せず多方面の疾患にも興味を保持しています。臨床各科、多施設との共同研究も積極的に行っています。詳しくは、当該分野ホームページをご参照ください。

○人体病理学分野

人体病理学分野では、主として循環器疾患の病態解明を、ヒト病理組織検体・動物モデル・培養細胞などを用いて病理組織学的・分子病理学的な手法で検討しています。特に血管病理では血管平滑筋細胞の細胞生物学的特性と血管病変の病態との関連・冠動脈病変の画像診断所見の病理組織学的検証・血管病変における小胞体ストレス関連分子の関与に関する研究を行っています。また、心臓病理では心筋梗塞や心筋炎、心不全の病態解明を多角的に検討しています。臨床各科、他施設との共同研究も推進しており、多方面からの人材も受け入れています。詳しくは、当該分野ホームページをご参照ください。

教育活動その他

病理学2分野全員で、卒前、卒後教育にあたっています。講義や実習責任者は主にスタッフが務めますが、研修期間中も以下のように卒前・卒後教育に従事します。

1. 卒前教育：

2年生の病理学系統講義、2、3、4年時の病理学実習、4、5年生のBSLおよび6年生選択実習の担当者を務めながら、卒前教育における病理学の役割を学び、将来病理学教育スタッフとして教育活動に貢献できるように修練を積みます。

2. 卒後教育：

ローテート中の初期臨床研修医や、臨床からの大学院生に対し診断業務に関する直接の相談役となります。切り出し作業、診断業務などを一緒に行うなかで、作業手順、留意点などを指導します。

○給与：専修医については日本大学医学部附属病院専修医制度規定による給与

○外勤：学内規定による

○休日：土・日曜・祝日は8-14時30分までの病理解剖当番が月2日程度、夜間当直はなし

○有給休暇：学内規定による（夏季休暇を含む）

○資格取得：死体解剖資格（厚労省）

日本病理学会専門医（日本専門医機構）

日本臨床細胞学会専門医（日本臨床細胞学会あるいは日本専門医機構）

○学会活動：日本病理学会総会、同関東支部会、日本臨床細胞学会学術集会、同東京都支部会など

問い合わせ先

日本大学医学部病態病理学系 病理学分野 医局長 宇都 健太

内線 2252（人体病理学分野）・2256（腫瘍病理学分野） PHS 8643（医局長）

E-mail：uto.kenta@nihon-u.ac.jp